

かずさ水道広域連合企業団水道工事標準仕様書 新旧対照表

改 正 後	改 正 前	備考欄
I 共通編 3. 工事 3. 1 工事一般 3.1.1 一般事項 1 (略) 2. 受注者は、監督職員の指示があった場合、工事施工に先立ち週間工程表を提出しなければならない。 3.1.2 (略) 3. 2～3. 1 5 (略)	I 共通編 3. 工事 3. 1 工事一般 3.1.1 一般事項 1 (略) 2. 受注者は、監督職員の指示にしたがい、工事施工に先立ち週間工程表を提出しなければならない。 3.1.2 (略) 3. 2～3. 1 5 (略)	(変更)

かずさ水道広域連合企業団水道工事標準仕様書 新旧対照表

改 正 後	改 正 前	備考欄
IV 電気・通信・機械工事等 1 3. 共通事項 1 3. 1 施工一般 13.1.1 適用範囲 1 (略) 2. 電気・通信・機械工事等であっても特殊なものについては、その全部または一部を特記仕様書によるものとする。 13.1.2～13.1.20 (略)	IV 電気・通信・機械工事等 1 3. 共通事項 1 3. 1 施工一般 13.1.1 適用範囲 1 (略) 2. 電気・機械・計装設備工事であっても特殊なものについては、その全部または一部を特記仕様書によるものとする。 13.1.2～13.1.20 (略)	(変更) (変更)

かずさ水道広域連合企業団水道工事標準仕様書 新旧対照表

改 正 後	改 正 前	備考欄
V 工事関係要領等 20-2. 工事記録写真撮影要領（水道事業） 1. 共通事項 (1)・(2) (略) (3) 写真はA4版大の写真つづりに工程順又は、工事起点 終点の順に整理して添付し、監督員を経て主任監督員及び総括監督員の検閲を受けるものとする。 デジカメを使用する場合は、原則として有効画素数は黒板の文字が判読できる程度（100～300万画素程度）とし、印刷用紙は普通紙を使用するものとする。 (4)～(10) (略) 2 (略) 写真撮影箇所一覧 (略)	V 工事関係要領等 20-2. 工事記録写真撮影要領（水道事業） 1. 共通事項 (1)・(2) (略) (3) 写真はA4版大の写真つづりに工程順又は、工事起点 終点の順に整理して添付し、監督員を経て主任監督員及び総括監督員の検閲を受けるものとする。 デジカメを使用する場合の印刷用紙厚は、0.15mm以上とする。 (4)～(10) (略) 2 (略) 写真撮影箇所一覧 (略)	(変更)

かずさ水道広域連合企業団水道工事標準仕様書 新旧対照表

改 正 後	改 正 前	備考欄
Ⅴ 工事関係要領等 27. 品質管理基準（水道事業） 1～3（略） 品質管理基準 別表のとおり	Ⅴ 工事関係要領等 27. 品質管理基準（水道事業） 1～3（略） 品質管理基準 別表のとおり	（変更）

別表（改正前）

工 事	工 種	工 種 細 目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
管 工 事	(1) 土工	埋戻工	簡易貫入試験	12回以上/10cm	○布設延長100m以下は 2箇所 ○100m以上は、100m毎 に1箇所 ○50m以下は、1箇所 ○路線毎に1箇所 ○上記以外、道路管理者 の指示があった場合や、 現場状況に応じて必要な 場合測定する。		記録写真
	(2) 分岐工	不断水穿孔工	水圧試験	0.75MPaを1分間 以上保持する。	○設置箇所毎に試験を行 い漏水しないこと。		記録写真
		給水管切替工 (サドル分水)		0.75MPaを1分間 以上保持する。			
	(3) ポリエチレン管 接合工	直管曲げ配管		水道配水用ポリエチレン管 及び管継手施工マニュアル (配水用ポリエチレンハ イプ システム協会) による。			チェックシート 記録写真
		継手接合部		EF接合チェックシートによる。			
	(4) K形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		継手接合部	継ぎ手の伸び	K形継手チェックシートに よる。			
			受口面～ゴム 輪間隔 受口面～白線 間隔他				

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
管 工 事	(5) N S形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	N S形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	N S形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		ライナ使用部	継ぎ手の伸び	〃	〃		
		継手接合部	受口面～ゴム 輪間隔 受口面～白線 間隔他	N S形継手チェックシートに よる。	〃		
	(6) G X形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	G X形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	G X形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		ライナ使用部	継ぎ手の伸び	〃	〃		
		継手接合部	受口面～ゴム 輪間隔 受口面～白線 間隔他	G X形継手チェックシートに よる。	〃		
	(7) フランジ接合工	継手接合部		ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。 フランジ継手チェックシートに よる。	ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。 〃		チェックシート 記録写真
	(8) その他の管接合 工	直管曲げ配管 継手接合部		ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		・溶接鋼管について は、別途基準による。
	(9) 管及び弁類等 水道材料	配水管材料及び 水管材料	・(社)日本水道協会 規格	・(社)日本水道協会規格	・JWWA ・仕様書		

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
道 路 復 旧 工 事	(1) 路盤工	下層路盤工	現場密度の測定 (施工)	最大乾燥密度の93% 以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上	○掘削面積2000㎡以上とな る場合に実施 ○布設延長100m以下は、 2箇所 ○100m以上は、100m毎に 1箇所 ○50m以下は、1箇所 ○路線毎に1箇所 ○給水管切替工事及び鉛給 水管更新工事は、各路線 毎に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指 示があった場合や、現場状 況に応じて必要な場合測定 する。	締め固めは、10個の 測定値の平均値X10 が規定値を満足しな ければならない。 10個の測定値が得が たい場合は3個の 測定値の平均値X3 が規格値を満足し なければならない が、X3が規格値を はずれた場合は、 さらに、3個のデ ータを加えた平均値 X6が規格値を満足 していればよい。 ※県基準 4 下層路盤	
		上層路盤工	下層路盤工に同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 5 上層路盤	
		アスファルト安定処理工	下層路盤工に同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 6 アスファルト安定 処理路盤	
		セメント安定処理工	現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 7 セメント安定処理 路盤	

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
道 復 旧 工 事	(2)アスファルト舗装工	アスファルト舗装工	現場密度の測定	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上	○施工面積200㎡を超え2000㎡以下の場合は、コアを3個採取して測定する。 ○施工面積200㎡以下の場合は省略する。 ○給水管切替工事は、各路線毎に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指示があった場合や、現場状況に応じて必要な場合測定する。		
			温度測定（初期締固め前）	110℃以上	運搬の都度		
			外観検査（混合物）	目視	随時		

別表（改正後）

工 事	工 種	工 種 細 目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
管 工 事	(1) 土工	埋戻工	簡易貫入試験	12回以上/10cm	○布設延長100m以下は 2箇所 ○100m以上は、100m毎 に1箇所 ○50m以下は、1箇所 ○路線毎に1箇所 ○上記以外、道路管理者 の指示があった場合や、 現場状況に応じて必要な 場合測定する。		記録写真
	(2) 分岐工	不断水穿孔工	水圧試験	0.75MPaを1分間 以上保持する。	○設置箇所毎に試験を行 い漏水しないこと。		記録写真
		給水管切替工 (サドル分水)		0.75MPaを1分間 以上保持する。			
	(3) ポリエチレン管 接合工	直管曲げ配管		水道配水用ポリエチレン管 及び管継手施工マニュアル (配水用ポリエチレンハ イ システム協会) による。			チェックシート 記録写真
		継手接合部		EF接合チェックシートによる。			
	(4) K形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	K形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		継手接合部	継ぎ手の伸び				
			受口面～ゴム 輪間隔	K形継手チェックシートに よる。			
			受口面～白線 間隔他				

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
管 工 事	(5) N S形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	N S形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	N S形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		ライナ使用部	継ぎ手の伸び	〃	〃		
		継手接合部	受口面～ゴム 輪間隔 受口面～白線 間隔他	N S形継手チェックシートに よる。	〃		
	(6) G X形管接合工	直管曲げ配管	曲げ角度と偏位	G X形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	G X形ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		チェックシート 記録写真
		ライナ使用部	継ぎ手の伸び	〃	〃		
		継手接合部	受口面～ゴム 輪間隔 受口面～白線 間隔他	G X形継手チェックシートに よる。	〃		
	(7) フランジ接合工	継手接合部		ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。 フランジ継手チェックシートに よる。	ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。 〃		チェックシート 記録写真
	(8) その他の管接合 工	直管曲げ配管 継手接合部		ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。	ダクタイル接合要領書 (日本ダクタイル鉄管協会) による。		・溶接鋼管について は、別途基準による。
	(9) 管及び弁類等 水道材料	配水管材料及び 水管材料	・ (社) 日本水道協会 規格	・ (社) 日本水道協会規格	・ J W W A ・ 仕様書		

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
道 路 復 旧 工 事	(1) 路盤工	下層路盤工	現場密度の測定 (施工)	最大乾燥密度の93% 以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上	○掘削面積2000㎡以上とな る場合に実施	締め固めは、10個の 測定値の平均値X10 が規定値を満足しな ければならない。 10個の測定値が得が たい場合は3個の 測定値の平均値X3 が規格値を満足し なければならない が、X3が規格値を はずれた場合は、 さらに、3個のデ ータを加えた平均値 X6が規格値を満足 していればよい。 ※県基準 4 下層路盤	
		上層路盤工	下層路盤工に同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 5 上層路盤	
		アスファルト安定処理工	下層路盤工に同じ 現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 6 アスファルト安定 処理路盤	
		セメント安定処理工	現場密度の測定 (施工)	同上	同上	同上 ※県基準 7 セメント安定処理 路盤	

工 事	工 種	工種細目	試 験 項 目	規 格 値	試 験 基 準	摘 要	試験成績表等確認
道 復 旧 工 事	(2)アスファルト舗装工	アスファルト舗装工	現場密度の測定	基準密度の94%以上 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上	○施工面積200㎡を超え2000㎡以下の場合は、コアを3個採取して測定する。 ○施工面積200㎡以下の場合省略する。 ○給水管切替工事は、各路線毎に1箇所測定する。 ただし、道路管理者の指示があった場合や、現場状況に応じて必要な場合測定する。		
			温度測定（初期締固め前）	110℃以上	運搬の都度		
			外観検査（混合物）	目視	随時		